

仮設訪問 いまだに深刻な被災の実態



進まぬ復興 つのる先行き不安

能登半島地震被災者共同支援センターは、ボランティアの活動に来ていただいた方々と仮設住宅を訪問。全国から寄せられた支援物資を届けながら被災者のみなさんから要望・意見を聞く活動、さらに被災されたお宅の片付け・災害廃棄物の運び出し、処分場への搬入などの活動を行っています。

被災者の声

その仮設住宅の訪問活動などで寄せられた、ご意見・要望、ボランティアの皆さんの感想を紹介します。

定は半壊。夫は家を壊すのを嫌がっていたが、最近やっと解体を承諾。でも私たち二人は先が短いので、仮設住宅で人生を終えるつもり。

■家はぺしゃんこ。昨年5月の地震で、壊れたトイレやお風呂部屋などを500万円かけて修理をした。最近ようやくリフォームが完成し、3週間住んだだけでまた震災に。家を建て替える余裕はなく、復興住宅を何とかお願いしたい。

■最初は避難所に入っていたが、そこを仕切っていた区長が、「女性はトイレ掃除と食事の準備を」と言った感じだった。仮設住宅は同じ地域の方が多く、バーベキューをやっていたが、私は地域が違うので入っていきなかった。

■家も倉庫も車庫もぺしゃんこになり、全壊判定。全壊・半壊の判定に納得していない方が多い。

■自宅は半壊判定で、二度判定をやり直してもらったが、半壊判定は変わらなかった。

ボランティアの声

■津波で一階がひどくやられた。二階は住める状態だが、周りの家はすべて解体すると聞いている。我が家だけを残しても水も出ないし悩んでいる。防潮堤をどうするかも早く決めてほしい。

■避難所の待遇はひどかった。当初は地べたで寝ていただけ。トイレも使えず、仮設トイレが届いたのは5日間後くらいでした。

■公費解体の申請を3月半ばにしたが、役場は「予定が決まれば連絡します」と。その後何の連絡もない。解体の予定を適切に教えてほしい。

■珠洲市の三崎中学校グラウンドにある三崎町第二団地(60戸)で物資のお渡しを大阪からのボランティア方など3人で。広場に支援物資を広げ、ハンドマイクで呼び込むと次々に住民が足を運びます。物資を渡す人、支援ニュースを配る人、要望を聞きとる人たち。お米は特に高くなっていると、みなさん喜んでくれた。

■ある女性は1月1日家族5人の団らんの時に被災。「家は崩れ落ち、命からがら飛び出した。雪を鍋に入れて溶かして飲んだ。道路も寸断、山越えして避難所に

緊急にご協力ください

お米が不足

ボランティア活動に
支障がでています

全国から 生活支援物資をお寄せください ボランティア活動にぜひお越しください